

第五章 財政

一 地方財政

1 合併当時の地方財政の背景

昭和二十一年新憲法が公布され、翌二二年から施行された。同時に施行された地方自治法の制定により、明治二二年に施行されて以来、五七年わたって続いた市制町村制が終り地方自治の時代となった。

戦後の復興とともに、地方財政は質量ともに著しく増大し、自治体の行財政を大きく圧迫した。地方財政を確立するため、昭和二二年、二三年と相次いで税制改正が行われたが、二〇年代後半から赤字団体が出現、二七年には全市町村の二六%、二九年には三九%の自治体が赤字団体となり、地方財政はますます窮迫してきた。

昭和二五年「シャウプ勧告」によって創設された「平衡交付金制度」により地方財政の強化が図られたが、増大した行政需要を満たすには充分なものではなかった。この「平衡交付金制度」は、二九年から「地方交付税制度」に改められ、当初二〇%の交付税率は順次引き上げが行われ、四一年には、国税（所得税・法人税・酒税）の三三%となり現在の制度が確立された。

こうした情勢のなかで、市町村財政の立て直しを図るため二八年「町村合併促進法」が成立し、町村合併は急速に進み、さらに、三〇年「地方財政再建促進法」の制定によって、自治体の再建が進み行財政力の向

上を図られた。

このような状況のなかで経済は徐々に好転し、三〇年代後半から高度経済成長期を迎えた。

2 昭和四〇年代の地方財政

高度経済成長が進むにつれて行政需要が飛躍的に増大し、道路、河川、下水道など住民の生活環境整備事業が増大、ついで社会福祉施設の充実や農林漁業などの産業振興対策等の公共事業が増大し財政負担が大きくなった。さらに三〇年代の急激な経済成長は、生産性の低い農山村の人口流失をまねき都市化傾向に拍車がかかった。このため都市と農村の地域間格差は、ますます大きくなり過密、過疎等さまざまな地域問題へ発展していった。

こうした過密、過疎問題や地域間格差を是正するため、三六年「低開発地域促進法」、三七年「辺地に係る公共施設の総合整備のための財政特例法」、「新産業都市建設促進法」、三九年「工業整備特別地域整備促進法」、四五年「過疎地域対策緊急措置法」等が次々と制定された。

高度成長をとげた我が国経済は、四八年の石油ショックにより異常な物価高騰を招き情勢は一変した。また、「列島改造論」に端を発した物価の高騰や物価高騰はインフレを引き起こした。これに伴って、公務員の給与改定が度重なったために、人件費等、義務的経費が著しく伸び、自治体の財政硬直化が急速に進んで地方財政はしだいに悪化していった。

3 昭和五〇年代以降の地方財政

昭和三〇年代後半から長期にわたって繁栄を続けた高度経済成長は、四八年の石油ショックをさかいに終りを告げた。五〇年代以降経済は停滞

し、低成長時代に突入した。五〇年代の我が国の財政は、国、地方を通じて收支不均衡を生じたため、巨額の公債発行（いわゆる自治体の借金）に依存せざるを得なくなった。

自治体は、長引く経済の構造的不況から立ち直り、安定成長を図るため、公共事業の前倒しや拡大に努力を傾けた。投資効果は徐々に現われ始めたが、一方、財政は公債に依存するところが多くなり、ますます財政構造を悪化させる原因となった。

五六年、国は、財政の立て直しを図るため臨時行政調査会の答申を受けて行政改革をスタートさせた。国、地方を問わず、公債依存からの脱却、職員の定数は正、補助金・手数料・分担金等の見直し、議員定数の是正、経費節減など細部にわたって検討がなされ実行に移された。

五〇年代後半は「地方の時代」の幕開けでもあった。これまでの政治経済の都市集中型から地方分散型への移行が強叫ばれ、その努力が求められた。

六〇年代に入り、景気も徐々に回復し、更には長期安定化の様子を呈している。経済の安定に支えられ国民生活も中流意識が高まりつつあるなかで、住民意識や価値観の変化に対処し急速に進む高齢化社会に対応し、二一世紀に向けて快適で住みよい町、个性的で魅力のある町づくりに努力していかねばならない。

二 久万町の財政

合併時の三四年度と三〇年経過した六二年度の久万町の財政規模を比較すると、実に四四・五倍に膨張していることがわかる。年々行政需要

の増大に伴い、地方財政は著しい窮乏の中にあるが、久万町は合併以来現在まで、赤字決算を計上することなく健全財政を維持することができた。これは、四〇年代までは町有林会計からの補填によるところが大きい。

1 歳入

普通会計歳入決算額を三〇年間の伸びで表わすと次表のとおりである。これらの表を見ると、国・県支出金、地方債、分担金、負担金等特定財源の伸び（六〇・七）が大きいのに対し、地方税、地方交付税等一般財源の伸び（三六・三）が小さいことがわかる。特に、一般財源の内地方税の伸び（一四・七）が少ない。また、歳入決算額の構成比で見ると、合併当初は地方税、財産収入の占める割合がかなり高くなっているが、徐々に減少し、かわって地方交付税、県支出金、地方債の占める割合が高くなってきた。

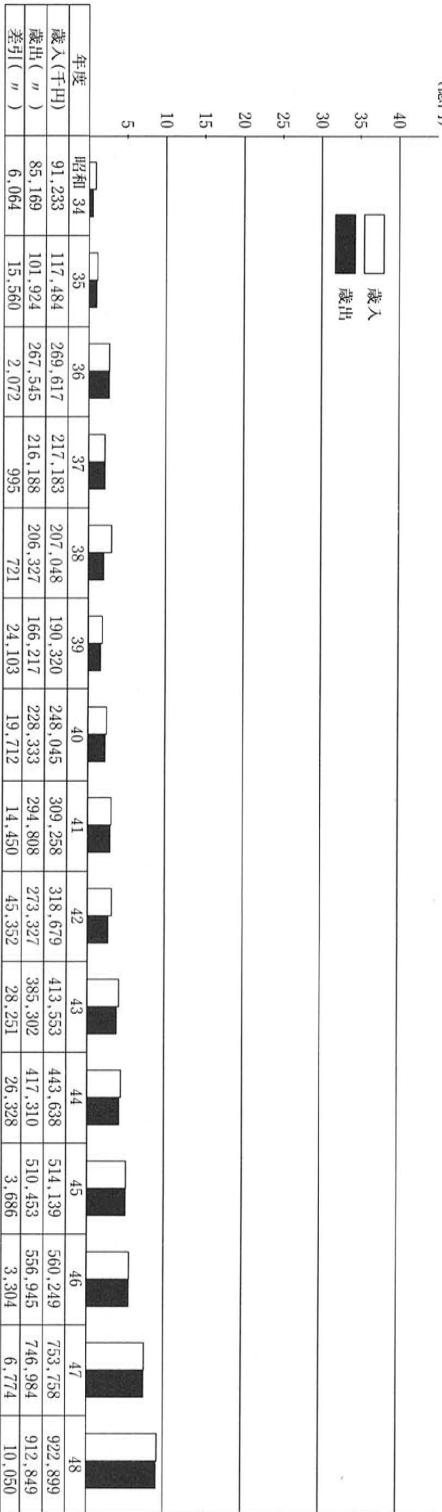
一般財源と特定財源、自主財源と依存財源との割合を表わしたのが八六、八七頁の表である。

自主財源が多いということは、財政基盤に安定性があるということであるが、この表を見るとその変動が顕著である。合併当初は自主財源の割合も、五九・六％から八四％とかなり高かったが以降次第に減少し、四〇年代前半には五〇％を割ることとなった。自主財源の主なもの、地方税と財産収入（町有林会計から繰入）である。特に合併当初が高いのは、庁舎建設等の財源として町有林会計の繰入れが多かったためである。

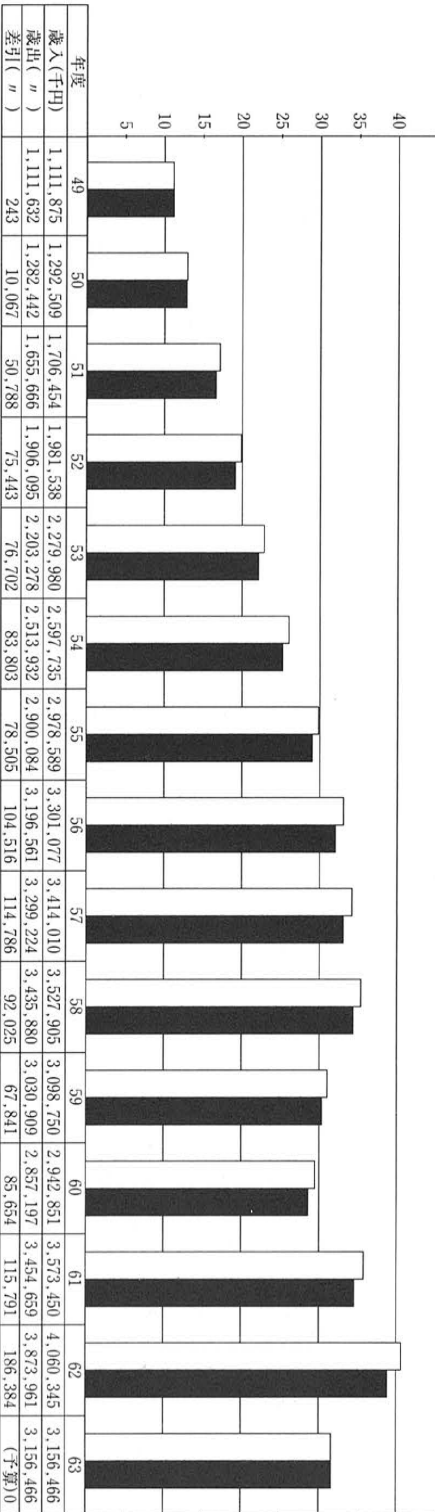
四〇年後半から極端に減少し、五五、五六年には二〇％にまで減少し

(億円)

■ 歳入
■ 歳出



(億円)



(普通会計＝一般会計＋町有財産会計) 資料＝決算統計

普通会計決算規模の推移

普通会計歳入決算額の状況

(単位：千円)

区 分	年度																
	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48		
一 般 財 源	地方譲与税	29,770	30,088	32,793	34,816	39,521	41,727	44,791	48,222	54,405	55,403	61,335	71,972	79,272	87,251	106,967	
	地方譲与税 交付金								特別交付 金 2,399	臨時地方 財政交付 金 195							
	娯楽施設利用税										2,892	4,729	5,385	5,153	6,493	6,948	
	自動車取得税										104,811	136,346	173,984	208,786	260,190	341,169	
	交付金										194	226	161	187	318	425	
	地方交付税	23,864	26,766	32,218	40,677	51,605	64,310	67,548	73,661	89,953							
	交通安全対策特 別交付金													7,992		8,777	
	繰入金																
	繰越金	6,954	6,064	15,560	2,072	341	2,099	24,103	19,712	14,450	45,352	28,251	26,328	3,686	3,310	6,774	
	計	60,588	62,918	80,571	77,565	91,467	108,136	136,442	143,994	159,003	208,652	230,887	277,830	305,862	361,278	474,908	
	特 定 財 源	分担金・負担金	2,295	4,156	4,643	6,431	6,254	3,407	2,904	17,987	11,294	17,727	21,164	16,092	15,954	40,601	44,854
		使用料	1,654	2,315	2,146	2,494	2,513	5,299	5,522	5,773	6,233	5,754	6,639	7,840	7,993	8,684	5,947
手数料		542	711	951	1,379	2,143	1,489	1,976	1,966	1,967	2,182	2,157	2,059	1,953	2,038	2,621	
国庫支出金		4,802	11,362	6,945	1,446	13,655	12,822	8,322	14,149	9,070	25,002	16,025	11,664	20,550	41,791	73,724	
県支出金		1,203	6,005	4,012	15,639	13,554	3,477	34,151	56,042	58,136	53,529	53,395	122,468	128,350	113,703	123,889	
財産収入金		8,688	25,235	166,432	95,009	60,131	34,180	43,003	47,525	55,188	63,446	84,565	53,517	20,729	47,575	68,764	
寄入金		500	1,107	798	613	350		1,143	3,022		5,263	3,432	3,015	7,595	482	18,435	
繰入金		3,961	2,045	3,119	1,607	2,481	11,410	1,125	2,679	3,866	3,098	10,274	5,154	21,463	13,508	13,257	
諸収入債		7,000	1,600		15,000	14,500	10,100	14,600	18,000	10,900	28,900	15,100	14,500	29,800	124,100	96,500	
計		30,645	54,566	189,046	139,618	115,581	82,184	111,603	165,264	159,676	204,901	212,751	236,489	254,387	392,482	447,991	
合計		91,233	117,484	269,617	217,183	207,048	190,320	248,045	309,258	318,679	413,553	443,638	514,319	560,249	753,758	922,899	

(単位：千円)

区分	年度															
	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63(予算)	
一般財源	地方交付税	135,481	139,209	152,297	188,593	202,824	220,416	254,301	276,665	309,751	333,343	358,345	380,323	410,287	437,632	408,540
	地方譲与税	6,744	7,503	11,566	13,194	13,684	19,947	21,955	22,541	36,751	39,893	37,934	36,527	38,328	40,503	42,700
	奨学施設利用税	1,611	14,017	20,170	18,352	16,270	21,892	20,183	24,228	25,324	28,753	31,026	31,635	34,822	39,026	35,700
	自動車取得税交付金	9,888	10,411	10,275	10,861	12,497	13,753	13,675	14,401	22,427	23,618	24,939	24,756	25,207	29,293	26,400
	交通安全対策特別交付金	423,864	475,611	526,538	606,701	763,024	849,710	926,924	1,039,432	1,085,686	1,107,995	1,149,893	1,248,019	1,305,116	1,392,880	1,526,893
	繰入金	463	535	496	654	744	841	572	511	578	30,000	490	601	671	2,367	1,900
	繰入金	13,200	535	496	654	744	841	572	511	578	30,000	490	601	671	2,367	1,900
	繰入金	10,050	243	10,067	50,788	75,443	76,702	83,803	78,523	104,516	114,786	92,025	67,841	85,654	115,791	126,733
	計	601,301	647,529	731,409	889,143	1,084,486	1,253,261	1,321,413	1,463,301	1,585,033	1,678,388	1,872,745	1,789,702	1,947,085	2,198,992	2,363,866
	特定財源	分担金・負担金	55,045	61,382	71,909	84,886	84,523	95,934	102,493	118,632	185,280	410,636	174,596	150,983	199,874	175,804
使用料		6,898	7,979	9,284	15,177	21,401	29,011	30,283	39,600	39,348	44,121	58,877	62,034	64,513	70,412	69,950
手数料		2,165	1,919	2,131	2,866	2,831	16,666	17,644	17,912	18,120	18,152	20,274	20,509	22,615	23,444	23,315
国庫支出金		100,628	108,706	168,006	137,356	228,379	215,667	324,486	450,982	293,031	196,685	160,048	104,882	251,156	342,168	79,542
県支出金		140,765	248,931	336,186	501,535	336,326	444,516	610,854	644,029	628,525	511,316	334,557	388,721	421,542	461,504	349,181
財産収入		145,538	59,330	68,008	44,400	99,789	139,923	51,480	46,900	150,877	67,304	32,584	46,493	51,867	89,531	36,552
寄付入金		1,875	3,132	5,749	3,600	1,812	1,303	5,382	2,360	18,990	2,450	13,445	10,650	152	9,401	19,360
繰入金		16,360	46,101	32,272	34,675	27,733	61,584	65,624	77,461	15,000	4,308	178,093	150,877	169,346	133,589	156,228
諸地方債		40,300	107,500	281,500	267,900	363,700	339,870	448,930	439,900	387,900	495,800	290,950	218,000	395,800	555,500	453,000
計		510,574	644,980	975,045	1,092,395	1,195,494	1,344,474	1,657,176	1,837,776	1,828,977	1,849,517	1,226,005	1,153,149	1,626,365	1,861,353	1,344,773
合計	1,111,875	1,292,509	1,706,454	1,981,538	2,279,980	2,597,735	2,978,589	3,301,077	3,414,010	3,527,905	3,098,750	2,942,851	2,573,450	4,060,345	3,708,699	

たが、その後は三〇%前後で推移している。

税収の乏しい過疎町村にとって地方交付税に頼るところが大きい。また四六年以降は地方交付税、国・県支出金、地方債等依存財源の比率が高くなってきた。

(注1) 一般財源||使途が特定されていない財源(地方税・地方交付金税等)

(注2) 特定財源||使途が特定されている

歳入決算額の構成比

昭	(%)							
	地方税	地方交付税	国庫支出金	県支出金	1.3 財産収入	地方債	その他	
34	32.6	26.2	5.3	9.5	7.7	1.4	17.4	
35	25.6	22.8	9.7	5.1	21.5	1.4	13.9	
36	12.2	11.9	2.6	1.5	61.7		10.1	
37	16.0	18.7	0.7	7.2	43.7		6.9	6.8
38	19.1	24.9	6.6	6.5	29.0		7.0	6.9
39	21.9	33.8	6.7	1.8	18.0		5.3	12.5
40	18.1	27.2	3.4	13.8	17.3		5.9	14.3
41	15.6	23.8	4.6	18.1	15.4		5.8	16.7
42	17.1	28.2	2.8	18.2	17.3		3.4	13.0
43	13.4	25.3	6.0	12.9	15.3		7.0	20.1
44	13.8	30.4	3.6	12.0	19.1		3.4	17.7
45	14.0	33.8	2.3	23.8	10.4		2.8	12.9
46	14.1	37.3	3.7	22.9	3.8		5.3	12.9
47	11.6	34.5	5.5	15.1	6.3		16.5	10.5
48	11.6	37.0	8.0	13.4	7.5		10.5	12.0
49	12.2	38.1	9.1	12.7	13.2		3.6	11.1
50	10.8	36.8	8.4	19.3	4.6		8.3	11.8
51	8.9	30.9	9.8	19.7	4.0		16.5	10.2
52	9.5	30.6	6.9	25.3	2.2		13.5	12.0
53	8.9	33.5	10.0	14.8	4.4		16.0	12.4
54	8.5	32.7	8.3	17.1	5.4		13.1	14.9
55	8.5	31.1	10.9	20.5	1.7		15.1	12.2
56	8.4	31.5	13.7	19.5	1.4		13.3	12.2
57	9.1	31.8	8.6	18.4	4.4		11.4	16.3
58	9.4	31.2	5.6	14.5	1.9		14.8	22.6
59	11.6	37.1	5.2	16.5	2.2		16.0	11.4
60	12.9	42.4	3.6	11.4	19.9			18.7
61	11.5	36.5	7.0	11.8	1.5		11.1	20.6
62	10.8	34.4	8.4	11.4	2.2		13.7	19.1
63 (予算)	10.5	41.4	2.7	9.3	11.7		7.8	16.6

歳入の伸び

地方税	14.7	県支出金	383.6
地方交付税	58.5	財政収入	10.6
分担金・負担金	76.6	諸収入	33.7
使用料・手数料	42.3	地方債	79.4
国庫支出金	71.3	歳入決算額	44.5
一般財源(注1)	36.3	自主財源(注3)	22.0
特定財源(注2)	60.7	依存財源(注4)	77.7

(昭和34年度を1とした場合の指数)

2 歳出

目的別歳出額を合併時の三四年度と三〇年後とを比較してみると九〇頁の表のとおりである。

特に商工費、土木費、公債費、農林業費の伸びが著しい。伸び率の低

(注3) 自主財源||自治体が自らの権能を行使して調達しうる財源(地方税、財産収入、諸収入、地方債等)

(注4) 依存財源||国・県等に依存する財源(地方交付税、国県支出金、地方債等)

る財源(国・県支出金分担金、負担金、使用料・手数料、財産収入、諸収入、地方債等)

分担金・負担金、使用料、手数料、財産収入、寄付金、繰入金、繰越金、諸収入)

自主財源と依存財源の構成比

一般財源と特定財源の構成比

		(%)	
昭 34	自主財源	59.6	依存財源 40.4
35		61.1	38.9
36		84.0	16.0
37		66.5	33.5
38		54.9	45.1
39		52.3	47.7
40		49.8	50.2
41		46.9	53.1
42		47.2	52.8
43		47.9	52.1
44		49.1	50.9
45		36.2	63.8
46		29.7	70.3
47		27.0	73.0
48		29.9	70.1
49		34.9	65.1
50		24.7	75.3
51		20.6	79.4
52		21.4	78.6
53		22.6	77.4
54		26.6	73.4
55		20.5	79.5
56		20.1	79.9
57		27.4	72.6
58		31.9	68.1
59		34.5	65.5
60		30.2	69.8
61		30.8	69.2
62		29.4	70.6
63 (予算)		35.6	64.4

		(%)	
昭 34	一般財源	66.4	特定財源 33.6
35		53.6	46.4
36		29.9	70.1
37		35.7	64.3
38		44.2	55.8
39		56.8	43.2
40		55.0	45.0
41		46.6	53.4
42		49.9	50.1
43		50.5	49.5
44		52.0	48.0
45		54.0	46.0
46		54.6	45.4
47		47.9	52.1
48		51.5	48.5
49		53.7	46.3
50		50.1	49.9
51		42.9	57.1
52		44.9	55.1
53		47.6	52.4
54		48.2	51.8
55		44.4	55.6
56		44.3	55.7
57		46.4	53.6
58		47.6	52.4
59		60.4	39.6
60		60.8	39.2
61		54.5	45.5
62		54.2	45.8
63 (予算)		63.7	36.3

目的別歳出額の状況

(単位 千円)

年度 区分	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
議費	1,913	1,893	3,356	4,071	4,116	4,723	5,694	6,919	6,505	7,027	7,672	9,416	14,110	15,833	21,790
総務費	32,861	33,621	172,867	114,994	71,682	41,979	54,676	64,420	48,520	64,772	56,129	51,984	72,829	138,899	192,403
民生費	4,011	4,518	6,563	5,688	28,523	9,489	15,381	24,018	21,004	24,403	25,657	29,443	38,360	55,211	118,358
衛生費	8,225	5,443	15,712	15,539	12,186	14,484	16,226	11,716	14,865	56,065	26,849	22,200	26,827	36,982	53,525
農業費	8,385	16,770	16,446	27,234	23,601	20,718	39,828	81,527	64,860	68,378	111,404	167,187	197,881	195,824	181,741
林業費	49	487	529	792	464	1,099	3,077	2,020	2,672	2,302	5,492	31,779	7,316	18,215	18,861
商工費	2,171	4,467	8,645	8,632	7,468	10,662	13,678	33,755	32,735	45,366	51,113	86,139	70,175	49,083	84,148
土木防費	2,100	3,485	2,769	5,235	3,510	4,758	4,665	4,622	4,923	5,116	7,597	7,715	9,405	11,309	13,464
教育費	17,429	21,816	30,530	27,155	41,725	43,173	64,196	55,453	61,325	71,397	67,129	86,176	91,779	133,358	150,238
災害復旧費	6,564	7,923	5,004	4,444	6,564	8,754	4,106	3,234	8,328	10,910	—	5,511	2,188	9,167	8,578
公債支出金	1,461	1,501	5,124	2,404	6,488	6,388	6,806	7,124	7,590	8,395	11,441	12,903	14,834	18,186	34,510
合 計	85,169	101,924	267,545	216,188	206,327	166,217	228,333	294,808	273,327	385,302	417,310	510,453	556,945	746,984	912,849

年度 区分	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63(予算)
議費	26,558	30,842	31,303	39,129	41,622	43,327	44,000	49,007	48,729	47,488	54,255	56,059	58,257	55,618	58,799
総務費	147,750	153,662	183,157	175,072	275,030	234,777	259,062	229,466	243,755	299,143	278,659	308,248	464,286	781,102	414,874
民生費	243,680	206,511	191,226	210,155	209,251	208,339	205,463	238,067	228,330	166,192	162,767	187,454	191,321	187,224	216,307
衛生費	82,206	82,376	83,921	104,246	113,129	292,363	181,959	205,058	232,580	185,417	198,167	213,799	318,908	201,683	253,035
農業費	221,071	342,002	448,007	577,920	634,230	700,710	785,648	931,658	1,044,355	862,685	652,705	680,682	758,483	794,579	925,727
林業費	25,801	32,495	33,824	20,456	42,354	66,306	219,899	179,512	222,567	554,814	407,333	217,907	331,599	210,241	330,224
商工防費	102,686	156,742	262,253	280,269	442,206	423,460	467,065	511,360	349,594	429,874	332,714	244,097	220,044	248,632	268,665
土木防費	16,148	16,032	21,197	38,507	54,580	63,346	68,521	76,783	84,753	85,490	72,679	80,414	84,018	91,252	81,745
教育費	167,394	200,104	282,696	299,439	250,618	289,543	393,543	427,942	423,121	438,085	408,246	362,733	341,041	476,816	392,917
災害復旧費	28,755	14,433	59,316	74,895	26,947	56,216	101,020	121,753	144,687	27,223	39,057	41,925	222,758	245,851	135
公債支出金	48,583	47,343	58,766	86,027	113,904	135,545	173,904	225,955	276,753	339,449	378,527	425,977	450,744	480,963	522,732
合 計	1,111,632	1,282,442	1,655,666	1,906,095	2,203,278	2,513,932	2,900,084	3,196,561	3,299,224	3,435,880	3,030,909	2,857,197	3,457,659	3,873,961	3,622,950

目的別歳出額の構成比

昭	議会費	民生費	衛生費	農林業費	土木費	公債費	教育費	その他	(%)	
34	2.2	32.1	4.7	9.7	9.8	2.5	20.5	1.7	16.8	
35	1.9	26.8	4.4	5.3	21.6	4.4	21.4	1.5	12.7	
36	1.3	64.6	2.5	5.9	6.1	3.2	11.4	1.9	3.1	
37	1.9	53.2	2.6	7.2	12.6	4.0	12.6	1.1	5.9	
38	2.0	34.7	13.8	5.9	11.4	3.6	20.2	3.5	5.3	
39	2.8	25.3	5.7	8.7	12.5	6.4	26.0	3.8	8.8	
40	2.5	23.9	6.7	4.1	17.4	1.3	6.0	28.1	3.0	7.0
41	2.3	21.9	8.1	4.0	27.7	0.7	11.4	18.8	2.4	2.9
42	2.4	17.8	7.7	5.4	23.7	1.0	12.0	22.4	2.8	5.8
43	1.8	16.8	6.3	14.6	17.7	0.6	11.8	18.5	2.2	9.7
44	1.8	13.5	6.1	6.4	26.7	1.3	12.2	16.0	2.7	13.3
45	1.8	10.2	5.8	4.3	32.8	6.2	16.9	16.9	2.5	2.6
46	2.5	13.1	6.9	4.8	35.5	1.3	12.6	16.5	2.7	4.1
47	2.1	18.6	7.4	5.0	26.2	2.4	6.6	17.9	2.4	11.4
48	2.4	21.1	13.0	5.9	19.9	2.1	9.2	16.5	3.8	6.1
49	2.4	13.3	21.9	7.4	19.9	2.3	9.2	15.1	4.4	4.1
50	2.4	12.0	16.1	6.4	26.7	2.5	12.2	15.6	3.7	2.4
51	1.8	11.1	11.5	5.1	27.1	2.0	15.8	17.1	3.5	5.0
52	2.1	9.2	11.0	5.5	30.3	1.1	14.7	15.7	4.5	5.9
53	1.9	12.5	9.5	5.1	28.8	1.0	20.1	11.4	5.2	4.5
54	1.7	9.3	8.3	11.6	27.9	2.6	16.8	11.5	5.4	4.9
55	1.5	8.9	7.1	6.3	27.1	7.6	16.1	13.6	6.0	5.8
56	1.5	7.2	7.4	6.4	29.1	5.6	16.0	13.4	7.1	6.3
57	1.5	7.4	6.9	7.0	31.7	6.7	10.6	12.8	8.4	7.0
58	1.4	8.7	4.8	5.4	25.1	16.1	12.5	12.8	9.9	3.3
59	1.8	9.2	5.4	6.5	21.5	13.4	11.0	13.4	12.5	5.3
60	2.0	10.8	6.6	7.5	23.8	7.6	8.5	12.7	14.9	5.6
61	1.7	13.4	5.5	9.2	21.9	9.6	6.4	9.9	13.0	9.4
62	1.4	20.2	4.8	5.2	20.5	5.4	9.0	12.3	12.4	8.8
63	1.6	11.3	5.9	6.9	22.6	9.0	7.3	10.7	14.2	6.5

(子算)

い費目は、総務費、衛生費、教育費、議会費で二〇％台である。

この表の構成比で主な費目をみると、総務費は三六、三七年は新庁舎建設、国有林買取等により六四・六％まで占めていたが、その後は減少し三〇年後は二〇・二％まで減少した。また教育費は二〇・五％から一二・三％まで減少している。逆に増加したのは農林業費の九・八％が二〇・五％、公債費の一・七％が一・四％である。土木費は五・二％から五〇年代には一五・二

目的別歳出の伸び

議会費	29.1	土木費	160.6
総務費	23.8	消防費	43.5
民生費	46.7	教育費	27.4
衛生費	24.5	災害復旧費	37.5
農林業費	94.8	公債費	329.2
商工費	4,290.6	歳出決算額	45.5

(昭和34年度を1とした場合の指数)

〇％にまで上昇したが、その後徐々に減少し九・〇％に留まった。農林業費は、農業基盤整備、農林道整備等の増加、土木費は、道路橋りょう、下水排水等生活環境整備、公営住宅建設等の増によるものである。公債費の増は、これら投資的経費の財源を地方債に依存したためであり、年々増加の傾向にある。

次に、性質別歳出額を合併時と三〇年後とを比較してみると特に、公債費(三三九・二)、普通建設事業費(二二七・〇)の伸びが著しい。反対に人件費、物件費、維持補修費等の伸びが低くなっている。経常的経費、投資的経費、その他の経費を構成比で表わしたのが九四頁の図である。経常的経費は合併当初は七〇％台と高くなっているが、その後は五〇％前後で推移している。投資的経費は概ね四〇％台で推移している。

性質別歳出額の状況

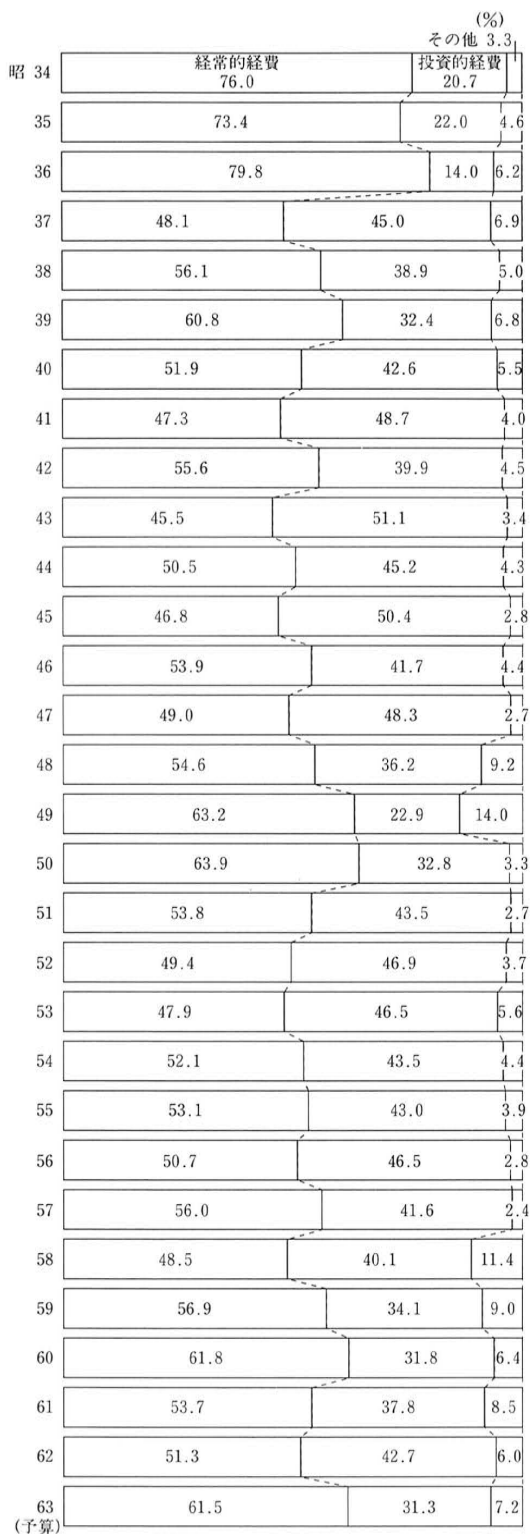
(単位 千円)

区分	年度															
	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	
経常的 費	人件費	25,306	22,679	27,903	35,336	43,131	47,454	60,017	63,382	68,940	83,051	95,725	116,643	145,669	171,739	202,347
	扶助費	664	250	2,673	3,573	8,249	1,888	670	540	572	3,999	3,288	9,310	14,521	29,252	52,875
投資的 費	公債費	1,461	1,501	5,124	2,404	6,488	6,388	6,806	7,124	7,590	8,395	11,441	12,903	14,834	18,186	34,510
	物件維持補修費	27,902	37,001	166,660	47,424	33,077	29,137	33,560	38,012	40,955	50,245	61,210	61,971	68,459	105,951	151,774
経費	補助費等	2,191	3,005	2,498	3,872	7,152	5,084	4,243	10,206	12,612	12,759	14,021	16,882	6,958	13,747	12,006
	計	7,207	10,401	8,468	11,434	17,755	11,179	13,221	20,056	21,388	17,002	24,934	20,936	49,580	27,318	44,999
投資的 経費	普通建設事業費	11,089	14,525	32,485	95,878	73,702	45,095	93,220	140,414	100,835	185,944	188,806	251,919	230,170	351,535	322,094
	災害復旧事業費	6,564	7,923	5,004	4,444	6,564	8,754	4,106	3,234	8,328	10,910		5,511	2,188	9,167	8,578
その他 の経費	積立金		1	1				1,000						8,000		5,000
	投資及び出資金	265		501	258	349	26	344		1,770	2,873	3,697	3,821	5,925	3,123	7,744
合計	貸付金	90	55	55		60	30				100			7,500	21,799	
	繰出金	2,430	4,583	16,173	14,565	9,800	11,182	11,146	11,840	10,337	10,024	14,188	10,557	10,641	9,466	49,123
合計	計	2,785	4,639	16,730	14,823	10,209	11,238	12,490	11,840	12,107	12,997	17,885	14,378	24,566	20,089	83,666
	計	85,169	101,924	267,545	216,188	206,327	166,217	228,333	294,808	273,327	385,302	417,310	510,453	556,945	746,984	912,849

(単位 千円)

区分	年度															
	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63(予算)	
経常的 費	人件費	276,489	326,312	351,792	400,048	430,285	436,691	477,580	507,667	536,737	551,904	600,143	615,950	643,219	665,714	718,159
	扶助費	73,593	64,333	101,102	109,423	111,764	121,067	135,546	93,878	104,121	30,561	30,055	28,668	27,468	25,485	26,851
投資的 経費	公債費	48,583	47,343	58,766	86,027	113,904	135,545	173,904	225,955	276,750	339,419	378,527	425,977	450,744	480,963	533,154
	物件費	208,416	285,391	250,173	216,781	219,230	264,758	366,105	394,316	476,234	467,194	440,968	405,681	466,659	475,048	651,068
投資的 経費	維持補修費等	12,813	10,936	10,348	13,991	10,613	14,547	14,379	20,208	22,324	13,853	10,719	11,610	16,419	14,851	7,658
	補助費等	82,507	85,147	118,745	115,433	168,477	337,074	373,200	379,892	431,328	262,802	263,437	276,738	250,731	325,478	324,135
計	702,401	819,462	890,926	941,703	1,054,273	1,309,682	1,540,714	1,621,916	1,847,497	1,665,763	1,723,849	1,764,624	1,855,240	1,987,539	2,261,025	
投資的 経費	普通建設事業費	225,362	406,200	660,584	819,339	997,502	1,036,651	1,145,426	1,363,669	1,228,072	1,351,026	994,114	868,075	1,082,515	1,408,271	1,148,867
	災害復旧事業費	28,755	14,433	59,316	74,895	26,947	56,216	101,020	121,753	144,687	27,223	39,057	41,925	222,758	245,851	
計	254,117	420,633	719,900	894,234	1,024,449	1,092,867	1,246,446	1,485,422	1,372,759	1,378,249	1,033,171	910,000	1,305,273	1,654,122	1,148,867	
その他 の経費	積立金					68,000	39,850	3,000	4,308	317,553	30,000	50,000	201,140	139,500	130,000	
	投資及引出資金	124,027	7,245	4,310	9,131	10,071	19,733	52,312	14,577	3,000	6,367	3,470	31,481	16,141	4,011	
合計	貸付金	12,945	5,532	9,800	14,300	15,043	22,180	23,770	33,670	35,391	26,333	29,019	37,481	31,162	25,077	25,801
	繰出金	18,142	29,570	30,730	46,730	31,442	29,620	33,842	40,976	36,269	41,615	211,400	95,092	33,363	51,582	105,605
計	155,114	42,347	44,840	70,161	124,556	111,383	112,924	89,223	78,968	391,868	273,889	182,573	297,146	232,300	265,417	
合計	1,111,632	1,282,442	1,655,666	1,906,095	2,203,278	2,513,932	2,900,084	3,196,561	3,299,224	3,435,880	3,030,909	2,857,197	3,457,659	3,873,961	3,675,309	

性質別経費の構成比



経常的経費（表の人件費、扶助費、公債費、物件費等）は、行政遂行上欠くべからざるもので、その性質上極めて弾力性に乏しい経費である。この経常的経費にあっては、一般財源の経常的・一般財源に対する比率を経常収支比率といい、財政の弾力性を示す指数である。一般的に、七〇〜八〇％が標準とされ、比率が低い場合は、その自治体の財政構造は弾力性があり、八〇％を大幅に超える自治体は、財政が硬直化しているといわれている。

性質別歳出の伸び

人件費	26.3	普通建設事業	127.0
扶助費	38.4	災害復旧事業	37.5
公債費	329.2	投資的経費	93.7
物件費	17.0	繰入金等その他の経費	
維持補修費	6.8		83.4
補助費等	45.2	歳出決算額	45.5
経常的経費	30.7		

(昭和34年度を1とした場合の指数)

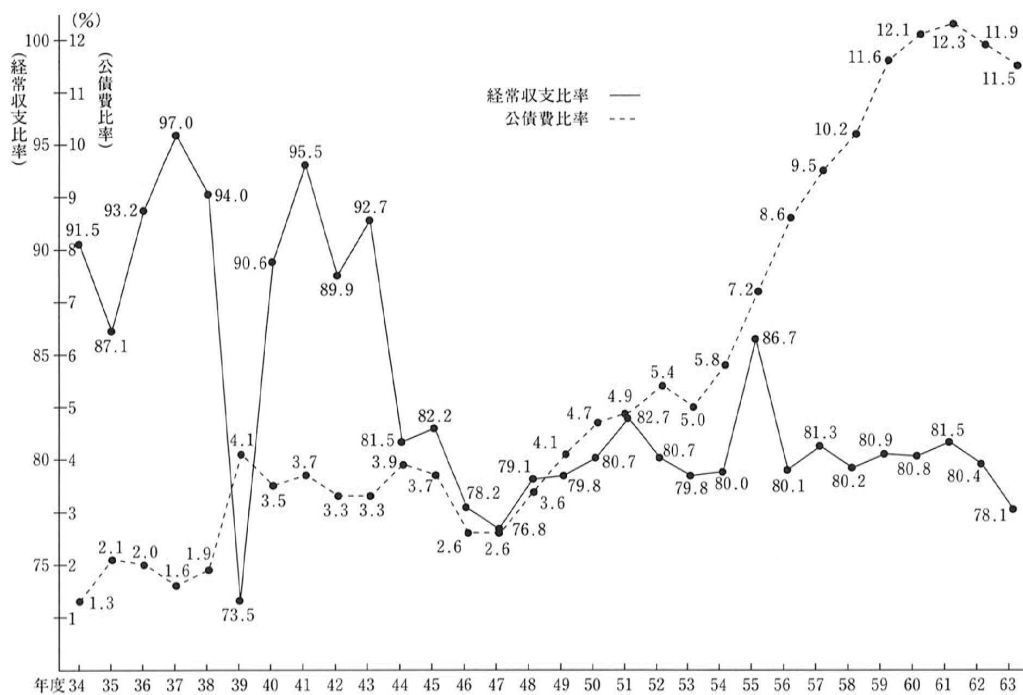
久万町の経常収支比率を表わしたのが次の図である。この図を見ると、三四年から四三年の一〇年間は九〇％以上でかなり高い比率であり、財政が硬直化していたといえる。四四年度以降は、概ね八〇％で推移しており、弾力性が確保されたといえよう。

次に、財源構造の健全性を表わす指標に公債費比率がある。投資的経費の財源として借入れた地方債（自治体の長期にわたる債務）が年々増加しているが、各年度末の残高で見ると五一年度以降急速に増加していることがよくわかる。この地方債の元利償還に要する経費を公債費といい、その経費の経常的・一般財源に占める割合を公債費比率という。久万町の公債費比率の推移を示したのが下図である。一般的に公債費比率が一五％を超えると黄信号、二〇％以上になると赤信号といわれているが、

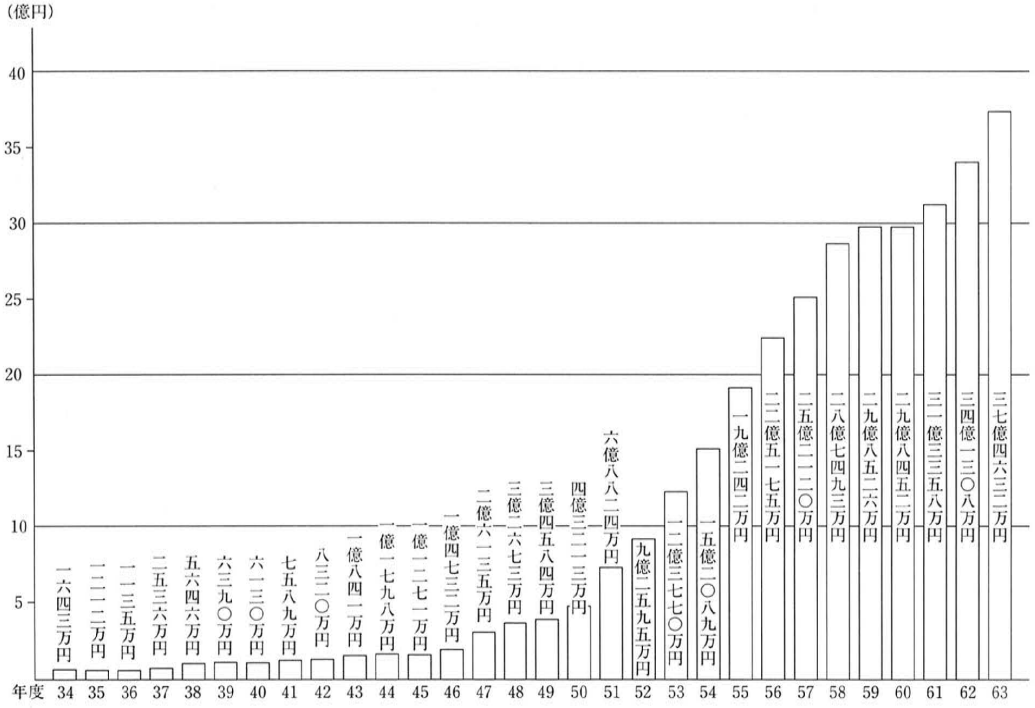
久万町は一二％前後で推移しているため、まず健全といえよう。しかし、地方債は、将来の長期にわたっての大きな財政負担となるため、今後は計画的な活用が必要であろう。

また今後は将来にわたって予想される大きな財政負担を軽減するため、特定目的の積立金（特定目的基金）、例えば、減債基金、校舎建設、庁舎建設等基金への積立金が必要であろう。

昭和三四年合併以来、三〇年間努力によって、一度も赤字決算を計上することなく健全財政を維持することができたが、今後は多様化、複雑化、拡大化する行政需要に適切に対処するため、計画的な財政運営をほかり、より魅力ある、快適で住みよい町づくりを進めながら、健全財政を維持するために、更に努力を払わなければならない。



経常収支比率・公債費比率の推移



地方債残高の推移